

## 1 学校教育目標

自ら考え、主体的に学ぶ意欲と社会性豊かな「生きる力」を育み、自らの夢や目標の実現を目指し、自律心や規範意識を身に付けた人間性豊かな生徒を育成する。そして保護者・地域から信頼される学校を目指し、次の目標をかかげる。 ○自ら学ぶ人 ○豊かな心を持つ人 ○すこやかに生きる人

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<p>&lt;入谷南中に通わせてよかった&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の小学校との連携、学力の伸長と定着、豊かでしなやかな心を育み、社会人としての基礎を作り上げることのできる学校</li> <li>○ 生徒の成長や変容を通して、保護者や地域に信頼される学校</li> <li>○ 保護者が安心して子供を任せられる学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<p>&lt;入谷南中生でよかった&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主体的意欲的に学習に取り組み、確かな学力・生きる力を身につけた生徒</li> <li>○ 基本的な生活習慣を身につけ、健康で規律正しい生活を送れる生徒</li> <li>○ 自己を生かし、何事にも希望を持って粘り強くやり抜く生徒（ポジティブ・シンキングを基本として）</li> <li>○ いじめ・差別を許さず、互いの良さ等を認め合い、他を尊敬できる心豊かな生徒</li> </ul>
○教師像	<p>&lt;入谷南中に勤務できてよかった&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒に対する愛情に溢れ、温かく、厳しく、生徒を指導・成長させる教師。</li> <li>○ 常に自らを高めようとする意識をもち、謙虚に努力・成長を重ねる教師。</li> <li>○ 理想の学校づくりに向けて協働して取り組み、共通実践ができる教師。（チーム入谷南中）</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

学校の現状：コロナ禍が明け、生徒の学校生活への意欲と期待は小さくないと感じている。生徒の期待を受け、生徒の困り感に寄り添いきめ細やかな学習・生活指導を行う必要がある。多くの学校行事は行うことができた。学力面では、各学年の発達段階に応じた目的意識をもたせ学校生活に望ませたい。

### 前年度の成果と課題

<成果>生徒は大きな生活指導上の課題がなく落ち着いた環境で生活できた。学習面では年間を通しての朝読書、読書月間、新聞活用週間の取組により読解力・表現力向上に役立った。サマースクールや定期考査前の補充教室、各種検定前の取組も行うことができています。教員の ICT 活用による授業改善が進み、各学級でClassRoomを開設し教材・課題を提供するなど、活用が増えた。生活面に関しては生徒の自主性の向上とともに規律ある学校生活を維持することができた。また、年2回のQUを活用した教育相談、その結果を特別支援教育委員会、不登校生徒対応委員会に反映させた。

<課題>自学ノート（ICT 活用）の提出率は良いが学習内容や家庭学習の時間確保に課題を残した。サマースクールや補充教室は実施できたが、教員・生徒の ICT 活用による授業改善を基本とした学力の定着と向上は特に年次研受講者には必須である。SC、SSW、関係機関とも連携を深めながら不登校生徒を増やさないこと、学力向上の下支えになる、いじめ・差別を許さず、互いの良さ等を認め合い、他を尊敬できる心豊かな生徒の育成と、各方面で生徒の活躍・躍動する姿を地域・保護者にご覧に入れ、地域の学校として信頼を深めていくことが今後も引き続いての課題であると考えている。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	心の教育の充実 キャリア教育や体験的な活動を通して自尊感情、自己肯定感の向上	○	○	○	○	○
3	小中連携・保護者や地域・外部機関との連携 生徒の健全育成を目指した教育活動の充実	○	○	○	○	○

## 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
授業改善を推進し、学習コンテンツの実施やパワーアップタイム（補充教室）の充実を図り、区調査等の正答率・通過率向上。		区調査通過率58% 到達度正答率60%		区調査通過率58.5% 到達度正答率52.3%		区調査の通過率はほんの少し基準を上回った。再調査は伸び悩んだ・学習の定着状況と具体的な取組は6（1）を参照		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
改善	ICT活用及び足立スタンダードに準拠した授業改善	全教科 全学年	年間を 通じて 都度	・足立スタンダードの準拠した授業展開を全教科で行う。 ・ICTを活用し、生徒の興味・関心・意欲を高める授業展開を行う。	教員アンケート 生徒アンケート	肯定的評価 85%以上	教員 90% 生徒 95.3%	・ICTの活用は進んでいる。 ・今後はAS準拠の授業展開の精度を向上させること。	◎
改善	朝読書及び読書月間の実施	全学年	朝読書は毎朝 年2回 一ヶ月 実施	朝読書は基本毎朝始業時から15分 読書月間は図書委員会の活動とリンクし読解力の向上と、長文を読むことへの抵抗感を減らす。様々な図書に触れさせ読書の幅を広げる。	教員アンケート 利用人数 貸し出し冊数 貸出利用人数 (4～2月)	肯定的評価 85%以上  貸出冊数 5000冊以上	教員 80% 貸出冊数 5546冊 入室者数(延べ) 4029人	・読書月間では貸出冊数の増加はあったが全体的には少ない印象。	△

継続	放課後補習教室 (定期考査前を含む)	全学年 補習対象 生徒 数学・英語 定期考査前は全教科	通年 週2日 程度 定期考査前5日 程度	指導体制 学年教員 学習習慣の確立、定期考査対策及び、基礎学力の定着を目指し、教科や学年の課題提出が不十分だった生徒や希望者を対象に、勉強会を実施する。数学はAIドリル活用	教員アンケート 生徒アンケート	肯定的評価 85%以上	教員 85% 生徒 87.6%	・各学年毎に工夫した内容(不合格者の居残り等)に一定の効果は見られた。	△
改善	学習コンテストを生かした取組	全学年 全生徒 国・数・英	国:年1回 数:年1回 英:年2回(3年は1回)	指導体制 教科担任 漢字・計算・英単語の3分野でコンテストを実施。事前学習、当日のテスト、事後の補習という一定期間連続した取組により、全生徒の基礎力を向上させる。 特に苦手な英語については結果によって内容を工夫して生徒の興味と関心・やる気を引き出す。	教員アンケート コンテストの結果(合格率)	肯定的評価 85%以上	教員 85% 漢字1年82:2年76:3年72 計算1年57:2年68:3年55 スベコン 1回 1年58:2年50:3年53 2回 1年58:2年51:	・コンテスト前の取組みは成果が出ていたが、コンテストが終わってしばらくたつと効果が薄れてしまう。	△
	サマースクール	全学年 希望者+ 選抜者	基本五 教科 7日間	区調査や定期考査の結果を分析し、弱点を補うことを目的とする。 学生ボランティアを活用する	教員アンケート サマースクール結果	肯定的評価 85%以上	教員 95%	・サマースクールは1年生の数学特訓も含めてよくできた。	◎
係属	検定受検の推進	全学年 希望生徒 国・数・英	国:年3回 数:年3回 英:年3回	指導体制 教科担当教員 教科への興味を高め、学習の成果を実感し達成感を味わわせる。合格率を高めるため、検定前の補習(英検では面接練習を含む)を実施し、生徒の分かる喜びを育む	教員アンケート 各教科生徒合格率	肯定的評価 85%以上 合格率 70%以上	教員 85% 生徒 合格率 英検:1回58%、2回51% 数検:1回60% 2回60% 漢検:1回47% 2回38%	・合格率はすべての級の合計なので低い。英検については上位級の面接指導が効果的であった。	○
継続	家庭学習の定着	全生徒 全教科	年間を通じて	家庭学習のやり方を全学年教員で指導する (年度当初) 学習ノートの点検定着 GoogleClassRoomの活用	教員アンケート 生徒アンケート	肯定的評価 85%以上	教員 65% 生徒 63.4%	・内容を工夫はしているが家庭学習の定着は生徒も十分とは考えてない	△

重点的な取組事項－2		生徒の豊かな心を育む：キャリア教育や体験的な活動を通しての自尊感情、自己肯定感の向上			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな心の指標となる自己肯定感・自己有用感の向上。</li> <li>生徒の学校生活満足度の向上。</li> <li>情報モラル及び心の教育の内容改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の「学校生活」に関する全校生徒と教職員員の肯定的な評価を85%以上にする。</li> </ul>	教員 95% 生徒 84%	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的にはできている。自己肯定感の向上が見られる</li> </ul>	◎	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
<ul style="list-style-type: none"> <li>QUの2回実施、及び三者面談等を生かした教育相談の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート「学校が楽しい」90%以上</li> <li>教員アンケート肯定的評価80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>QUの2回実施と分析</li> <li>三者面談を含む教育相談の実施による心の育成</li> </ul>	生徒 90% 教員 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>QUだけでなく三者面談を生かして、生徒の困り感に寄り添い適切な指導ができた。</li> </ul>	◎
<ul style="list-style-type: none"> <li>各種スポーツ・文化的行事等への積極的な取り組み。(自尊感情・自己肯定感を高める実践)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の行事への真剣な取り組み90%以上。</li> <li>教員アンケート肯定的評価80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会・文化祭の内容工夫。</li> <li>各部活活動内容の工夫。</li> <li>各教科教員と学担の連携。</li> <li>区内各種中学校連合大会への積極的な参加・取組・事前準備活動の充実。</li> </ul>	生徒 95.8% 教員 95%	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は合唱コンクールも実施でき、生徒の満足度は大きく向上した。</li> </ul>	◎
<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間を見通したキャリア教育・体験活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員アンケート、生徒アンケートの肯定的評価80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年の職業講話、</li> <li>2年の職場体験・上級学校訪問、</li> <li>3年の進路選択等より自己理解を深める。</li> </ul>	教員 100% 生徒 92%	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間を見通したキャリア教育は内容も年々改訂され向上している。</li> </ul>	◎
<ul style="list-style-type: none"> <li>情報モラル教育の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員アンケート・生徒アンケート肯定的評価80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報モラル教室の実施</li> <li>ファクトチェック講習会の実施</li> <li>安全教室の実施</li> </ul>	教員 90% 生徒 95.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファクトチェック講演会も定着した。上級学年ほどモラルの意識が高い。</li> </ul>	◎

重点的な取組事項－3		小中連携・保護者や地域・外部との連携の強化：生徒の健全育成を目指した教育活動の充実			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携推進を通じた児童・生徒の変容と落ち着いた学校づくり。</li> <li>・特色ある教育活動や生徒の成長を通して、地域・保護者の信頼を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員アンケート・小中連携の肯定的評価 90%以上</li> <li>・保護者アンケート肯定的評価 80%以上</li> </ul>	教員 95% 保護者 92%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は落ち着いた学校生活を送っている</li> </ul>	◎	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員同士の連携の推進、連携事業の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「舍人スタンダード」の学習・生活両面での共通実践、「教員同士の連携」における教員アンケート肯定的な評価 90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同研修会（年6回以上）を中心とした連携活動を通して、小・中の関連ある項目や発達段階を踏まえた教科指導や児童・生徒指導の取組を行う。</li> </ul>	教員 95%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エビデンスに基づいた小中連携は確実に進化している。教員相互の連携を進めた。</li> </ul>	◎
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員と児童・生徒、生徒と児童との連携の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の肯定的な評価 90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業支援等：3回以上</li> <li>・授業体験：1回以上</li> <li>・補充授業協力：夏休み他</li> <li>・部活動体験：1回以上</li> <li>・学校説明会：1回以上</li> </ul>	教員 95%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補充の協力はできなかったがそれ以外は連携ができていた。</li> </ul>	◎
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者・地域への情報提供と連携の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の肯定的な評価 90%以上</li> <li>・保護者の学校運営に対する肯定的評価 80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校HPの適宜更新・学校だよりや配信メールを活用した情報提供を行う</li> <li>・開かれた学校づくり委員会を中心とした外部人材の積極活用</li> <li>・避難所運営訓練の実施（生徒参加）</li> </ul>	教員 100% 保護者 92.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だよりや各学年通信ブログなどで適切な情報発信を行っている。</li> <li>・地域との避難所開設訓練も生徒参加で行うことができた。</li> </ul>	◎
<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識の向上と強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の決まり、時間を守る生徒の意識向上</li> <li>生徒アンケート 90% 教員アンケート 90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活目標の設定、道徳の充実、教員の率先垂範により、規範意識の向上を図る</li> <li>・生徒会を中心とした声かけ、呼びかけ、きまりの見直し</li> </ul>	教員 65% 生徒 93%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は決まりを守っていると感じているが、教員はまだままだと考えておりその差を埋めることが必須</li> </ul>	△

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 重点的な取組事項－1 学力向上アクションプラン

「成果」 年度末定着度確認テストにおいて、正答率(%)は国語1年:63 2年:66 数学1年:45 2年:33 英語1年:55 2年:51

「課題」 1, 2年とも数学・英語の結果に課題が見られた。数学は計算のミス、及び関数、英語は日本語から英語に直す部分等に課題があった。

「対策」 各教科の授業で解説と振り返り・演習の実施。指導するターゲット層とできない部分を明確にし、放課後補充等を集中的に学校体制で行い  
苦手意識の払拭と、つまらないミスの根絶を目指す。自信を持って新年度の区調査に臨めるよう備える。AIドリルを活用した学習も行う。

課題解決の方向性 苦手意識を払拭させ自信をもって問題に取り組めるようにする。基礎的な計算問題や英語の基礎文は繰り返し解かせ定着させる。

#### 重点的な取組事項－2 生徒の豊かな心を育む

「成果」 学力向上の下支えとなる豊かな心を育む活動は、キャリア教育や様々な工夫された体験活動により生徒の心の成長が感じられた。

「課題」 幼さが残る生徒が少なからずいる。他者を尊敬する気持ちを醸成する必要がある。家庭を含めSTOP いじめ・情報モラルの向上に取り組むこと。  
支援慣れしている生徒への自立を促すこと。自ら進んで学校の諸行事に取り組み達成感を味わわせること。

課題解決の方向性 生徒の活動の成果を保護者・地域に見えるようさらに発信し、理解と協力を得る。小中連携において小学校高学年の児童に対し中学校の生活指導基準を示し、中学校入学後にギャップを感じさせないようにする。いつまでも支援してもらうことを待つのではなく、目的意識をもって行事等に参加できるよう行事参加の前に自ら何をするのかを宣言させる等の工夫を行う。

#### 重点的な取組事項－3 小中連携・保護者や地域・外部との連携の深化

「成果」 小中で互いに授業参観(講師を招聘しての研究授業)や区の施策をより良く理解するための合同研修を行い指導力向上と共通の課題発見・解決に努めた。エビデンスを生かした計画を立てさらに得られた結果を分析し来年度に備える意識が教員に芽生えていること。

「課題」 小中9年間を見据えた児童・生徒の育成計画(教科連携における小中共通の課題、小中での生活指導基準の共有)を今後も策定すること。

課題解決の方向性 引き続き小・中で課題を共有し、連携して解決にあたる。特に小学校段階から中学校での生活を意識した学習や行事の取り組み、規範意識の醸成を図る。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

- ・日頃より本校の教育活動への御理解と支援に感謝すると同時に、特に家庭において家庭学習の支援(主に時間の確保と定着)を強くお願いしたい。
- ・運動会・文化祭等の行事だけでなく、学校公開週間や道徳授業地区公開講座の意見交換、土曜授業の見学等も積極的に来校するようお願いしたい。
- ・引き続き教職員一同「チーム入谷南中」として生徒の活動を支援し、卒業後は地域に戻り活躍できる生徒の育成に全力で取り組んでいく。

### (3) その他(学校教育活動全般について)

- ・「見落とさない、見過ごさない、見放さない」をモットーに生徒に優しく温かく厳しく接する「チーム入谷南中」

<実施結果(教職員アンケート調査) 内容により生徒への生活アンケート結果も含む>

A:十分に達成できた B:だいたい達成できた C:あまり達成できていない D:要改善、達成できていない

- <達成度>
- ◎:十分に達成 … 実施結果にC、Dがない
  - :おおむね達成 … 実施結果のC、Dが30%未満
  - △:達成せず … 実施結果のC、Dが30%以上50%未満
  - :課題が残る … 実施結果のC、Dが50%以上

※ アンケートの数値とともに、内容(昨年度との比較、自己評価コメント等)により達成度は決定する。